

資 料

全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査

独立行政法人 国立特殊教育総合研究所
聴覚・言語障害教育研究部

記入方法について

1. この調査は全国の傾向をみるためにのみ使用され、個々の学級や学校の事例として使用されることはありませんので、実態をそのまま記入してください。
2. この調査では、便宜的に下記の名称を用いています。回答においては下記の分類と名称にご留意下さい。尚、東京都の通級指導学級は 教室 とお考え下さい。
学級・・・難聴学級、言語障害学級 教室・・・通級指導教室
3. 調査用紙は難聴・言語障害学級・通級指導教室設置校（園）1校（園）につき1部を送付しています。したがって「同一校に複数の学級や通級指導教室が設置されている」「同一校内に他校（園）の学級が設置されている」「センター等にまとめて設置されている」などの場合でも、複数の学級・教室を合わせて記入することを原則としております。
ただし、学級・教室運営の現状や回答のしやすさに応じ、学級・教室ごとに別の用紙に記入することは差し支えありません。この場合、恐縮ですが、この用紙をコピーして使用して下さるようお願いいたします。
4. 記入は、平成13年9月1日現在 で、お願いいたします。
返送は、平成13年9月末日 を目安に、同封の返信用封筒にてお願い致します。

ご不明の点は、下記までお問い合わせください。

国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部

電話：0468-48-4121（内315） Fax：0468-49-9819

電子メール：kuboyama@nisc.go.jp

担当 小林倫代 久保山茂樹

調査項目 A 基本的統計資料

A-1 所在地

学校所在地を都道府県・政令指定都市でお書き下さい。

都・道・府・県・市

A-2 記入学級・教室、担任者数

(1) 学級・教室や担任者の数について、該当する欄に数字をお書き下さい。

小学校	学級数	担任者数
難聴学級		
通級指導教室(難聴)		
言語障害学級		
通級指導教室(言語障害)		

中学校	学級数	担任者数
難聴学級		
通級指導教室(難聴)		
言語障害学級		
通級指導教室(言語障害)		

幼稚園等	担任者数
幼稚園のきこえの教室	
幼稚園のこぼの教室	
上記以外の幼児の教室	

どのような教室(親の会が運営、福祉と共同運営など)か記入してください

(2)次の各項目に該当する担任の人数を記入して下さい。

- ・正式採用の教諭・・・・・・・・・・・・・・・・人
- ・期限つき・臨時採用の講師等・・・・・・・・人
- ・その他（例：言語聴覚士、保育士、指導員など）（ ）人

(3)学級・教室の通称（〇〇小ことばの教室など）がありましたら記入して下さい。

A－3 指導対象児童・生徒数

平成13年9月1日現在実際に指導している全ての幼児・児童・生徒について人数を記入して下さい。

	難聴学級・言語障害学級		通級指導教室	
	在籍している子ども	それ以外の子ども	対象児として計数している子ども	それ以外の子ども
難 聴				
言語障害				
その他				

区 分		週 1 回以上の定期的指導					その他の指導				
		幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生 以 上	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生 以 上
難 聴	60dB未満										
	60dB～79dB										
	80dB～99dB										
	100dB以上										
	不 明										
言語障害	構 音 障 害										
	口 蓋 裂										
	吃 音										
	言語発達の遅れ										
そ の 他											

注：この表では統計処理上児童・生徒1人について1障害に該当するものとして記入して下さい。

難聴の場合、表中数字(dB)は良耳の平均聴力レベルを記入して下さい。

上記の表の全ての子どもについて下記の診断を受けている子どもの人数を記入してください。

- 学習障害 人 注意欠陥/多動性障害 人 自閉症 人
- 高機能自閉症 人 アスペルガー症候群 人

A－4 指導形態別児童・生徒数

A－3で記入したすべての子どもの指導形態について障害別に分類して人数を記入して下さい。

	自校の子どもで			他校から通っている子どもで			巡回指導を受けている子どもで	
	主に難言 学級・教室	主に他の 特殊学級	主に通常 の学級	主に難言 学級・教室	主に他の 特殊学級	主に通常 の学級	主に他の 特殊学級	主に通常 の学級
難 聴								
言語障害								
その他								

注：「主に難言学級・教室」とは、主に難言学級・教室で指導を受けている場合を指します。

「主に他の特殊学級」とは、主に知的障害学級等、他の特殊学級で指導を受けている場合を指します。

「主に通常の学級」とは、主に通常の学級で指導を受けている場合を指します。

調査項目 B 指導内容・方法

B－1 指導形態など

(1)指導形態（教室の原則として、該当するもの1つの記号に○印をして下さい）

- a：ほとんど1対1の指導である
- b：1対1の指導を中心とし、小グループによる指導を併用している
- c：ほとんど小グループによる指導である
- d：小グループによる指導を中心とし、1対1の指導を併用している
- e：その他_____

(2)指導時間（それぞれに該当する人数を記入して下さい）

指導している子ども全員について、この教室での指導時間が

- a：主に、通常の学級等の授業終了後である子ども・・・・・・人
- b：主に、通常の学級等の授業時間中のいずれかである子ども・・・・人
- c：その他.....人

B－2 難聴児の指導について

(1)聴覚管理や補聴器の調整について

①設備・備品について、現有する備品に○印をして下さい。

- ☐オーディオメータ ☐騒音計
- ☐音場聴力検査装置 ☐補聴器特性検査装置

②聴覚管理や補聴器の調整について、該当するものに○印をして下さい（複数回答可）。

- ☐専門家に依頼している
 - どこの専門家ですか → ☐医療機関
 - ☐療育機関（難聴幼児通園施設等）
 - ☐聾学校
 - ☐大学・研究所等
- ☐教室で行っている
 - どれを実施していますか → ☐聴力検査
 - ☐音場における聴力検査
 - ☐補聴器の特性検査
 - ☐補聴器フィッティング
- ☐保護者に任せている
- ☐補聴器会社に依頼している
- ☐その他

(2)指導上重視していることがらを記入して下さい。

(3)指導上課題となっていることがらを記入して下さい

B－2 言語障害児の指導について

(1)指導上重視していることがらについて記入して下さい。

(2)指導上課題となっていることがらについて記入して下さい。

B－3 「その他」の子どもの指導について

(1)現在指導中の「その他」(A－3)の子どもについて、障害状況の概略を記入して下さい。

(2)「その他」の幼児・児童・生徒の指導上課題となっていることがらについて記入して下さい。

B－4 個々の子どもの指導計画（個別の指導計画）の立案について

(1)個々の子どもの指導計画に記載されている項目の概略を記入して下さい。

(簡条書きで結構です。例：児童の実態、長期の指導目標、など)

(2)指導計画立案に至るまでの具体的な作業の内容について記入して下さい。
(図示、箇条書きでも結構です。例：保護者との面接、知能検査、など)

(3)保護者の意見を反映させていますか。反映させている場合、その方法について記入して下さい。

(4)新学習指導要領になって、個別の指導計画の立案・展開の仕方に変化がありましたか。

※個別の指導計画の立案・展開にあたって使用している用紙がありましたら、調査用紙とともに送付下さい。

調査項目 C 学級・教室の経営等

C－1 指導対象児の決定・指導終了の決定について

(1)指導対象児をどのように決定していますか。

(2)指導終了の決定の基準、方法について記入して下さい。

C-2 学級・教室の経営上課題

学級・教室の経営上課題になっていることがらを3点まで記入して下さい。

- ・
- ・
- ・

C-3 通常の学級や他機関等との連携について

(1) 下記のうち行っていることすべてに○印をつけ、具体例を記入して下さい。

- a : 難言教育担当者と通常の学級の担任とが連絡を取り合う
(連絡帳で・電話で・口頭で・その他))
- b : 難言教育担当者が通常の学級を訪問し授業参観する
(具体例 :)
- c : 難言教育担当者が通常の学級を訪問し授業をする
(具体例 :)
- d : 通常の学級の担任が難言学級・教室を訪問する
(具体例 :)
- e : 通常の学級の子どもが難言学級・教室を訪問する
(具体例 :)
- f : その他

(2) 校内で、校務分掌など、難言教育以外に求められている役割にはどのようなものがありますか。

(3) 上記(2)で記した役割についてどのようにお考えですか。

(4) 難言学級・教室が設置されていることが学校にとってどのような意義や利点があると思いますか。

(5) 学校以外の機関（医療機関・福祉機関等）との連携において課題があればお書き下さい。

C-4 幼児の指導について（幼児の指導や相談をしている場合のみお答え下さい）

(1) どの時期（年齢または〇〇健診後など）から、どのような手続きで受け入れていますか。

(2) 幼児担当者について

① 幼児担当者（幼児の担当として配属された職員）はいますか。

・ ☐ いる（ 名） ・ ☐ いない（小学校教員が担当）

② 幼児担当者の所属は （例：〇〇幼稚園、△△町役場××課、□□村教育委員会）

③ 幼児担当者の職種は

・ ☐ 幼稚園教諭 【 ☐ 常勤（ 名） ・ ☐ 非常勤（ 名）（週に____回）】

・ ☐ 保育士 【 ☐ 常勤（ 名） ・ ☐ 非常勤（ 名）（週に____回）】

・ ☐ 言語聴覚士 【 ☐ 常勤（ 名） ・ ☐ 非常勤（ 名）（週に____回）】

・ ☐ その他（ ）

【 ☐ 常勤（ 名） ・ ☐ 非常勤（ 名）（週に____回）】

(3) 幼児の指導や教育相談をする場の名称を記入して下さい。

（例：〇〇小学校幼児部、△△町幼児ことばの教室、特にない・・・）

(4) 幼児の教育相談や指導をする利点と課題についてのお考えをお書き下さい。

・ 利点

・ 課題

C-5 中学生以上の指導について（小学校で中学生以上を指導している場合に記入して下さい）

(1) 中学生以上の対象児・者をどのような手続きで受け入れていますか。

(2) 中学生以上の対象児・者の指導方法や内容について課題があればお書き下さい。

C-6 保護者との連携について

(1) 学級・教室で保護者と連携しながら実施している活動があればお書き下さい。

(2) 親の会活動について、該当するものすべての記号に○印をして下さい。

① 親の会の組織について

- a: この学級・教室の対象児を中心とした親の会がある
- b: 他校の学級・教室と合同の親の会がある
- c: 現在、学級・教室としては親の会活動には関与していない

② 親の会の運営について

- d: 保護者が主に活動を計画・運営し、教師は補助的な役割を果たしている
- e: 教師が主に活動を計画・運営し、保護者はこれに参加している
- f: その他 ()

③ 親の会の運営等について課題があればお書き下さい。

(3) 保護者との関わりについて課題があればお書き下さい。

調査項目 D 勤務・研修等について

D-1 勤務について

現在の勤務時間や勤務内容などについて問題点があればお書き下さい。

D-2 研修について

学級・教室の担当者全員について、大学等において難言教育に関する専門課程を卒業しているか、大学・研究所・センター等における難言教育に関する研修経験などについて下記に記入して下さい。

大学等での 専門課程（選択）	難言教育の 経験年数	難言教育を初めて 担当する際の研修経験	難言教育を担当 する中での研修経験
担当者A【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
担当者B【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
担当者C【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
担当者D【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
担当者E【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
担当者F【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
担当者G【難・言・特・外】	年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
記入例1【難・言・特・外】	3年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】
記入例2【難・言・特・外】	9年月	【 有 ・ 無 】	【 有 ・ 無 】

注：専門課程 【難：難言教育課程等、言：言語障害課程等、特：難言以外の特殊教育、外：特殊教育以外】

調査項目 E 自由記述

難聴・言語障害教育の現在・将来などについて感じていることをお書き下さい。
また、その他にご意見がありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

下記に、学校名や記入された先生のお名前を記入いただければ幸いです。差しつかえない範囲でご協力お願い申し上げます。

学校名 _____

記入者 _____